



農林大学校の動き(H30年7月)

2018. 8. 7

島根県立農林大学校 (担当:教育部 松本)

TEL:0854-85-7011 FAX:0854-85-7113

<http://www.pref.shimane.lg.jp/norindaigakko/>

農林大の学生達の日頃の活動状況、いろいろな行事などを簡単にご紹介します。



○益田地域の農場の見学研修を開催(6/7)

肉用牛専攻の学生全員(11名)が参加。西部農林振興センター益田事務所から益田地域の農業の概要の説明の後、株式会社松永牧場、田原牧場、島根農場益田分場を見学した。それぞれの農場の運営管理、施設構造、飼育管理、経営方針等を学んだ。



○波根まちづくりセンター成人学級との交流を開催(6/19)

波根まちづくりセンターからの依頼で、成人学級と本校花き専攻の学生の花を通じた交流を図った。学生たちが講師となり、「夏の寄せ植え教室」を開催。一緒に寄せ植えを楽しみながら交流を深めた。

○平成30年度第1回放牧実践スクールに参加(6/29)

中山間地域研究センターで開催され、肉用牛専攻1年生全員(6名)が参加。放牧を行うメリット等の講義の後、ロープワークを実践で学んだ。今回の内容は基礎的なものが多く、学生はよく理解できた様子。次回は農林大を会場に水田での放牧場設置等の実習が予定されている。



○第34回農大祭「平成農大祭 ザ★ファイナル ～農業・林業 二刀流～」開催(7/1)

前日の大雨警報がうそのように天候に恵まれ、900名を超える来場者となった。牛肉やメロン、シイタケなど農林大産の農林産物即売や学生自治会が主体となって模擬店などを企画。学生たちが育てた野菜や果物がたっぷり入ったカレーライス、焼きそば、スムージーはとても好評であった。



○田舎定住に向けての意見交換(7/18)

7月18日 美郷町定住推進課・邑智郡森林組合美郷支所から職員が来校され、「田舎に定住するために必要なこと」と題して、学生との意見交換会を実施。田舎への定住促進の一助になればと思う。

○隠岐の林業視察(7/19・20)

7月19日～20日に林業科2年生は隠岐の林業を視察。ペレット生産施設やコンテナ苗生産施設などの視察に併せて、農林大学校林業科の卒業生との意見交換会を実施し、お互いに活発な意見交換ができた。



○「松江地域出身農林大生のための松江地域農業発見交流会」(7/20)に学生12名が参加

就農を目指す農林大生のために毎年企画(東部農振 C、松江地域再生協議会、農業士会主催)されている交流会に学生12名が参加した。農業士との昼食交流会、揖屋干拓地内の露地野菜栽培や果樹栽培、農事組合法人(農林大生が雇用就農)の環境保全型農業の取組等の視察により、松江地域の農業や農業を目指すための心得等について学んだ。

7月号(その2)



○「キャンドルナイトin波根海岸」に学生がボランティアで参加(7/21)

地元の実行委員会主催で行われ、本校の学生(14名)が波根海岸の砂浜にキャンドルで描かれる絵文字の点灯などを手伝った。その他、よさこい踊りや神楽の上演など賑やかに行われた。

○大田地区・出雲地区推進会議(地域の若い農業者育成・定着支援事業)開催(7/24・25)

農業高校別に開催され、高校と地元関係機関、県庁、農林大などの関係者が就農支援対策について協議を行った。農林大からは学生募集、進路状況などの情報提供を行い、今後の担い手育成への連携を確認した。(松江、益田は8月に開催予定)

○「オープンキャンパス『緑の学園』」始まる(7/27)

学生募集の一環として開催中。1回目(7/27)には、県内7高校から15名が参加し、希望の専攻に分かれて実習体験を行った。8/1、8/5、8/20と計4回の開催予定。



皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。